

資料A

・ザンビアには、73の部族があり、それぞれの部族で異なる言語を使っている。

(ニャンジャ語、ベンバ語、ロジ語、カオンデ語、ルンダ語、ルバレ語、トンガ語など)

公用語は英語とされているが、低学年や地方の学校では、それぞれの部族の言語を使って授業を行っている。

- ・都市部では、英語を話せる子は多くみられるが、地方の子どもたちの英語力は低い。
- ・国全体を通して、算数・数学の学力は低い。
- ・地方では、子どもの数に対して学校の数が足らないため、午前と午後で別れて授業を行うところもある。
- ・地方では、10~15kmの道のりを2~3時間あるいて学校に通う子どもたちがたくさんいる。
- ・学校の設備は都心と地方で大きく異なる。地方の学校では、校舎内も電気が通っていない場合や、教科書が生 徒全員に行き渡らない場合もある。
- ・国の経済状況は厳しく、先生たちの給料も期限までに支払われるとは限りらない。給料が支払われなければ、 先生たちも授業を行うことは難しくなる。
- ・日本のアニメの影響もあり、ザンビア大学では日本語を学習する学生もいる。
- ・教員養成学校では、先生たちをアフリカの他の国や、マレーシアなどの東南アジアに派遣し、 研修を行っている。

















		2 12			6		14			3
1	6	B	T	IN	1E		TA	BL	E	
	Time	7:15			9:15		10:15		7	12:15
	Mon				guage		10:55 Ma		S.S	E-AH
i	Tue	Scie	nce	Eng	Math	R	Tec	hnology ies	Soci	
	Ned	Math	Eng	Ho	ne	E	E. Art	Z·L	Science	T.S
	Thu							tk		
E	Fri	Expr	essive	1000				Science		

7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに





13 気候変動に 具体的な対策を





資料B

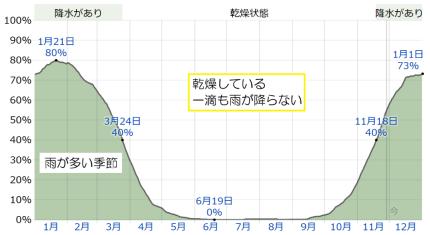
- ・ザンビアは、銅(どう)やコバルトなどの鉱物資源が豊富であり、国の全輸出額の約7割を占めている。 銅は日本にも多く輸出されている。
- ・天然資源が豊富な国ほど、貧困の問題や経済発展の遅れにつながる傾向がある。
- ・鉱山の周辺では、水や土の汚染から、家畜・人体に大きな健康被害をもたらしている。特に子どもでは、体内 に高濃度の鉛(なまり)が蓄積し、知的障害や発達の遅れなどの危険性がある。
- ・ザンビアの気候は雨季と乾季に分かれており、5月~10月には雨が一滴も降らない。 そのため、ダムの水量不足によって発電量が減り、計画的に停電することがある。 電気がないと、機械なども動かせず、経済や産業に大きな影響を及ぼしている。
- ・銅の生産も天候に左右される。
- ・雨が降らない日が続くと、農作物を育てることも困難になる。
- ・スーパーで売られているものの多くは、南アフリカからの輸入品を占めている。そのため物価が非常に高い。
- ・国は、内陸に位置しているため、物流はほとんど陸路を使っている。
- ・都市部と農村では経済格差が広がり、貧富の差も大きな課題となっている。







1日当たりの降水確率











資料C

- ・ザンビアには、病気などで親を亡くしたり、貧困が原因で捨てられたりして、路上で暮ら子どもたちがたくさ んいる。
- ・路上で暮らす子どもたちは、寒さや空腹、心の痛みを和らげるために薬物などをつかい、体を壊してしまう。 学校にも行けず、仕事に就くことも難しくなる。
- ・貧困地域では、きれいな水を手に入れることができず、コレラなどの病気にかかる人たちが大勢いる。 感染者の半数近くが病院に行けないまま死亡している。
- ・貧困地域では、水道はいくつかの家庭が共同でつかっており、一日12時間だけ使用できる。
- ・ザンビアの平均寿命は40歳で、生まれてから1歳になるまでに亡くなってしまう子どもが大勢いる。
- ・病院の設備も十分に整っていない場合がある。
- ・蚊が媒体となるマラリアの感染が心配されており、昔日本でも使われていた蚊帳(かや)で感染を防いでいる。
- ・国民の8人に1人がHIV (エイズ) に感染しており、それが原因で死亡率が高くなっている。
- ・国民の主な主食はシマである。シマはトウモロコシの粉にお湯を加え、30~40分火で温めながら練り上げたものである。おかずとして、野菜や豆、肉、魚を、トマトや玉ねぎと一緒に煮込んだものを食べている。 栄養の偏りが原因で、肥満になることも問題視されている。

